

STOP!事故増加

今回私達は、現在日本で増加傾向にある高齢者*1が関係する交通事故に注目し、高齢者が要因となる交通事故の予防または減少させる方法について探究した。はじめに、現在日本政府が行っている高齢者に対する交通事故、交通事故件数増加への対策を調査したが、現在行われている対策はなかった。加えて、ネットリサーチにより安全運転サポート車(以降サポートカー)またサポートカー限定免許を知り、それらの普及を試みたが、取得者にメリットがなくデメリットが多く存在していたため断念した。自動車運転免許証取得者、とくに高齢者を中心にアンケートを行った結果から、自動車運転免許証を返納してもらうという考えも実現不可能だと考えた。また交通システム研究所に伺った際に交通事故を起こす要因として高齢者の身体的要因と精神的要因があるとわかり、その中でも精神的要因である慢心に注目し、私達は高齢者の慢心に対するポスターを制作することにした。

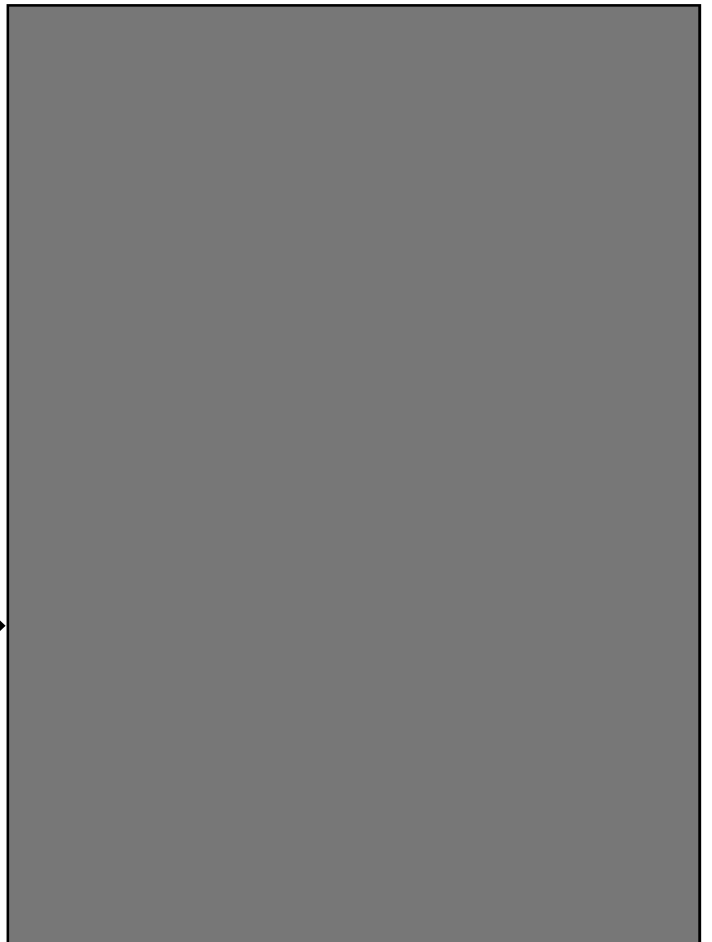
キーワード:高齢者、交通事故、免許、慢心

I.はじめに

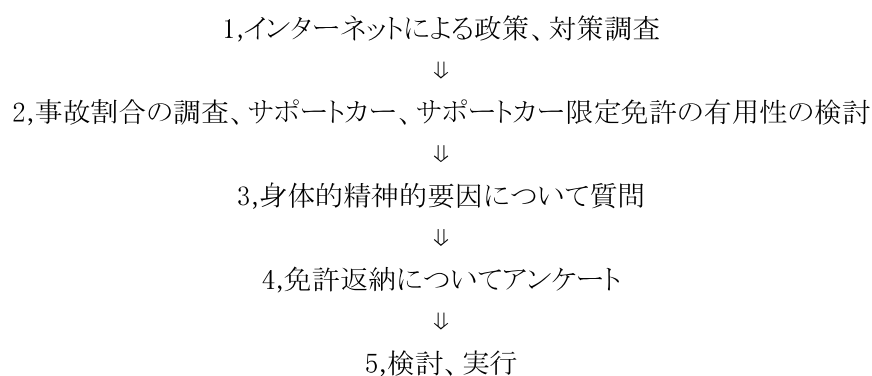
現在日本は高齢化に伴って、高齢者ドライバーの人数及び高齢者の自動車関係する交通事故の件数も増加している。そのような状況が要因となつてか、高齢者に対する無慈悲な言葉までも飛び交っている。わたしたちは交通事故を予防または減少させることによって、高齢者も現役世代も安心できるクルマ社会を形成するために、この探究を始めた。

河北新報第45583号より→

II.研究方法



インターネットを利用して、各自治体(主に東北地方と関西地方)や地方公共団体が現在行っている高齢者が関係する交通事故への政策または対策の対象、またその政策または対策がどのくらい効果を発揮しているか、いないかを確認する。高齢者が起因となっている交通事故割合について調査する、またサポートカーの性能、製造数、車種やサポートカー限定免許の普及率、有用性について調査し、サポートカーまたサポートカー限定免許の普及の方法について検討する。高齢者が起因となっている交通事故の高齢者の身体的要因また精神的要因について調査し、交通システム研究所の方に質問する。何歳くらいになったときに免許返納をしたほうが良いかと高齢者の免許返納是非についてアンケートを用いて調査し、免許返納の有効性について検討する。上記すべてを行っただけでわたしたちができることを検討、実行する。

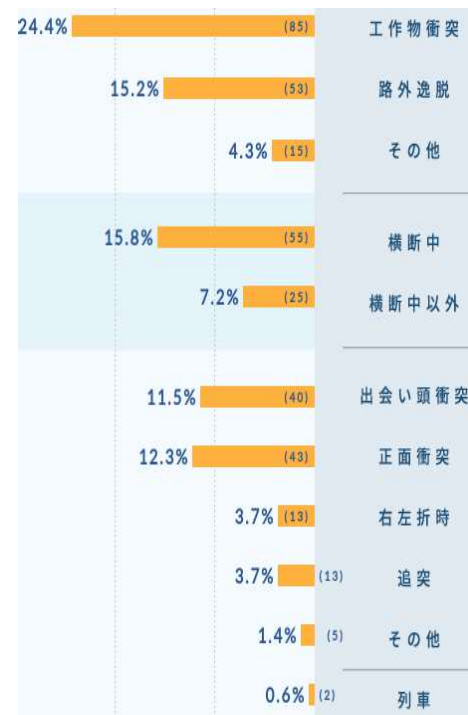
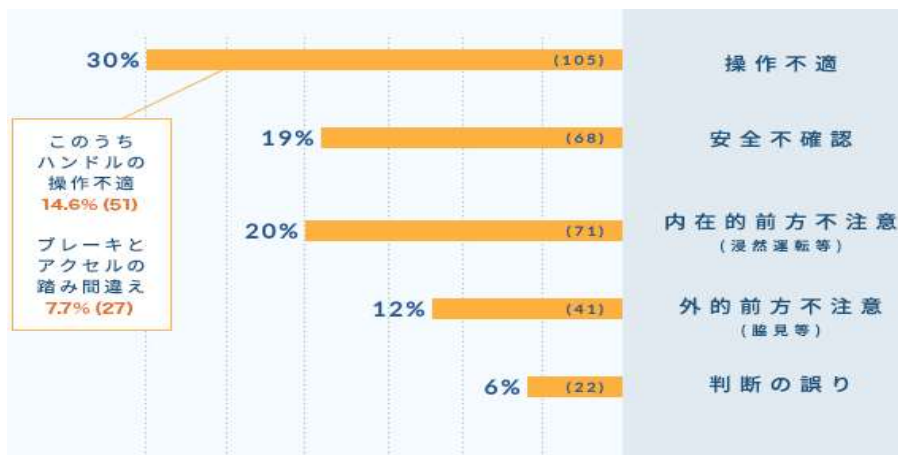


III.探究内容

図1↓

はじめに現在の日本では、国としてまたは、自治体として高齢者による交通事故に関する具体的な対策はみられなかった。次に高齢者による交通事故に関して、図1の通りで工作物衝突が高齢者が起こす交通事故の中で一番多いことがわかった。また高齢者が交通事故を引き起こす原因は図2より操作不適が一番多いということがわかった。

図2↓



この問題を解決するために車での対策はないか考

え、サポートカー、サポートカー限定免許について調査した。これらは、サポートカーの車種が少ない、免許を取得したときの利益がない、まず知られていないなどのデメリットが理解できた。またサポートカーの自動ブレーキについては、時速80km/sを超えると機能しないこともわかり、高齢者が事故を起こすときは時速100km/sを超えている場合がほとんどなので自動ブレーキのある意味がないこともわかった。なので車ではなく高齢者自身への対策を考えた。高齢者の身体機能の低下が交通事故に関連しているのではないかと思い交通システム研究所の方々に質問をした結果、少なからず要因ではあるという回答をもらえた。また、その衰えを軽減する効果が期待されるパソコンを使用するシステムを紹介してもらい、体験した。このシステムを宮城県の運転免許センターに設置してもらおうと考えたが、有料のものを推めるのは良くないのではないか、私達が払えるがくも少なく意味がないのではないかと考え、断念した。また精神的要因だと考えた慢心についても質問したところ、「なくはないのではないか」という回答を頂いた。次に免許返納に関してアンケートを取った。図3、図4はそれぞれ何歳から免許を返納するかを高校生、高齢者にとったもので、ここから80代で返納する割合が高いことがわかり、免許を返納しない理由のアンケート(図5)から仕事や買い物など生活する上で必要なことがわかった。このことから高齢者に免許返納を促すのは現実的ではないと考えた。

図3↓

115件の回答

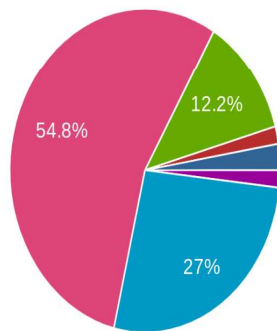


図4↓

何歳から免許返納すべきか

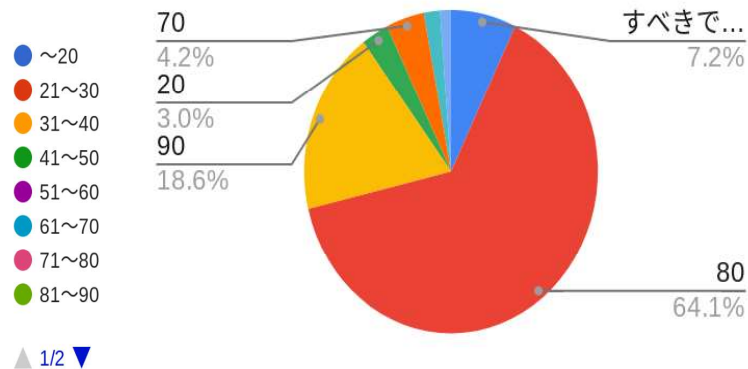
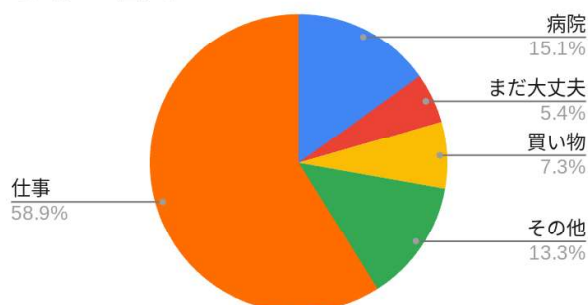


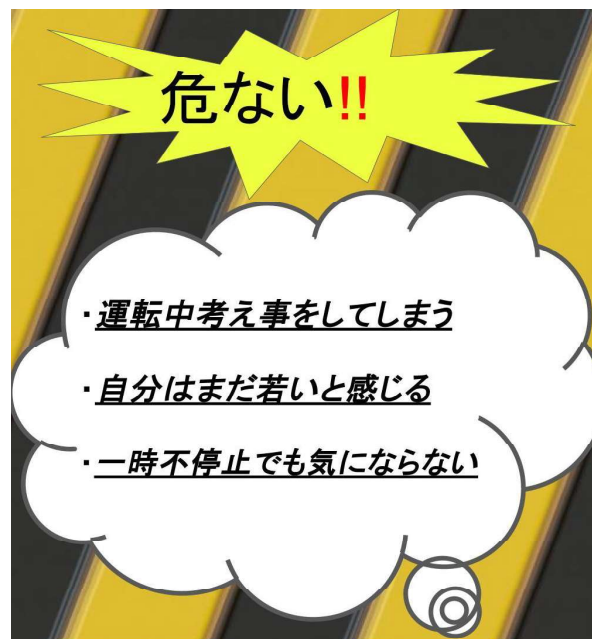
図5↓

しない理由



そこで精神的要因である慢心への対策を考察した。交通システム研究所の方や、自分たちができるところを考えた結果、ポスター(図6)を作ることにした。

図6→



1つでも当てはまったら
事故を起こすかもしれません
運転を見直してみましよう。

IV. 考察

班の考察

高校生に比べて高齢者は免許返納を考える年齢が高かった。理由としては主に2つで、①クルマを運転できる自信があるからと、②生活に必要不可欠だから、というものだった。そのような結果から、現状のままでは高齢者に免許返納を進めていくことは難しいと考えた。今後は高齢者に免許返納を進めていくのではなく、高齢者が安心して自動車を運転できるような環境づくりを中心として、高齢者に安全運転を呼びかけるようなポスターをまずは作成していきたい。

個人の考察

高齢者に対してのアンケートから80代、90代など比較的高齢になってから免許返納を開始した方が良いという回答が多かったが、これは図5のアンケートで多かった回答である仕事のために必要だからだということがわかった。サポカーの種類が少ない理由はサポカーの需要がないからで、サポカー限定免許を普及できればサポカーの種類が増えて、デメリットではなくなったのではないかと考えた。今回の探究では直接提案することができなかったため、高齢者や運転免許センターに経験にどれだけ頼った運転をしているか統計を取り、その解決方法として状況別に図解した問題を出して改善率のデータを取り、より良くしたものを提案したい。

V.終わりに

わたしは探究が始まった当初、行き詰まることはなくすべて順調に探究が進むだろうという甘い考えを抱いていましたが、探究の活動のすべてが終わった今は順調に進んだものなんて一つもなかったなと感じています。高齢者の交通事故を減らそうと思い始めたこの探究でしたが、考えていた以上に僕たちだけでできることがなく苦勞しました。今考えてみると、もっと大人の力を信じたほうが良かったなと感じます。しかし、三人で最後まで探究できたことはわたしにとってかけがえのない良い経験になったと思います。最後になりますが、わたしたちの拙い質問にも真剣に答えてくださるだけでなく指導もなさってくださった交通システム研究所の方々、アンケートの設置を快諾してくださった宮城県警察 運転免許センターの方々、また今回の探究にご指導してくださった先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

注

図1、2はそれぞれ事故割合、事故の要因の割合のグラフ

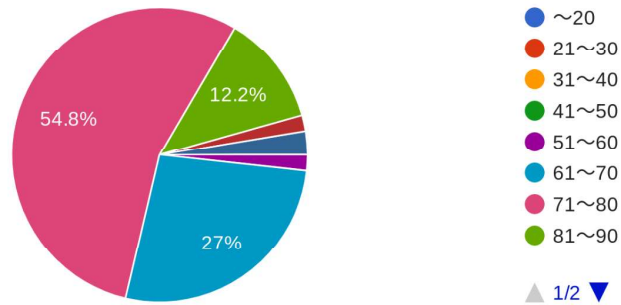
*1ここで言う高齢者とは65歳以上の男女のことを指す

参考文献

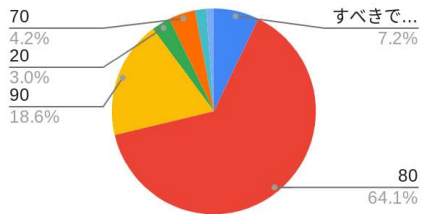
- 1)法務省 平成30年版犯罪白書 平成30年12月
- 2)警察庁 サポートカー限定免許について 令和6年6月28日
- 3)内閣府 令和元年交通安全白書
- 4)東京海上日動火災保険 高齢ドライバーによる重大事故を防ぐには
- 5)経済産業省 サポカー(安全運転サポート車)のwebサイト 令和5年8月30日
- 6)交通システム研究所 様 7)宮城県警察 運転免許センター 様

資料

何歳から免許を返納したほうが良いと思いますか ※仙台市ぐらの交通手段の発達度の場合
115件の回答



何歳から免許返納すべきか



しない理由

